初の出会いは沖縄伊豆味（Sep. 3, 1993）：乙羽岳林道を降りきるとアスファルトの立派な道に出る。遠くに伊豆味の町並が見えかくれしているのを確認して道を逆に上ってみる。谷川沿いにゆるやかな坂道となって続く道路をときおり乗用車が走り過ぎてゆく。谷川の反対側にはミカン畑が広がり、道がカーブするあたりでヤナギに似た木が谷川をおおうように車道にまではみ出している。それとなくこの茂みに近づいたそのとき、タテハ属とすぐにわかる滑翔で谷川沿いにこちらにむかってくる茶褐色の大きな蝶が目に入る。特別天然記念物指定のコノハチョウだ。初めての沖縄でこいつは超ラッキー。ほとんど完全体で翅表のブルーとオレンジの配色がきれいだ。残念ながら採集禁止なので「ただ見るだけ」。普通の採集くらいで種が減るというようなことはないのだがぐっとがまん。

石垣島オモト林道（Sep. 8, 2001）：ゆっくりと自転車を押して勾配のある舗装林道を上るうち、大型のイシガケチョウが現れて道案内よろしく体にまとわりつくように飛ぶ。まもなく道路わきの樹木葉上低い位置にコノハチョウが飛来してとまる。

沖縄八重岳（May 17, 2002）：名護城入口バス停から乗った始発で八重岳入口下車。かなり勾配のある道をひたすら 1 時間ほど上って、コノハチョウに出会える林道へと入る。その分岐点には無数のイシガケチョウが舞う。シマウリノキなどの樹木が影をつくるあたりで準備してきたスプレーで泡盛を霧状に散布する。するとどうだ。数分もたたないうちにコノハチョウがどこからともなく飛び出してきて路傍の葉上にとまる。そしておもむろにゆっくりと羽を開閉して翅裏の木の葉模様からは想像もできない鮮やかなブルーとオレンジのきれいな翅表をみせてくれる。いつのまにか現れる個体数が増え、それぞれ好みの位置でテリ張り状態をとるが、どれも低くはない離れた位置にとまるため Digital Video 撮影記録から切り取った静止画像はフォーカスが甘い。

石垣島オモト林道（Sep. 17, 2002）：ヤエヤマムラサキが次々と現れた道にこの年はまったくその姿をみないのが寂しい。やがて頻度高くコノハチョウをみかける場所まで登ったそのとき、車窓前方を力強い羽ばたきでコノハチョウが飛ぶ。コノハチョウは U ターンを繰り返して路傍のシマウリノキと思われる葉上で V 字に羽をひろげて静止する。Video カメラ片手にゆっくりと近づきじっくりと撮影を楽しめたが、残念ながら翅表に輝くブルーをとらえることはできずじまい。

沖縄八重岳（Nov. 5, 2006）：コノハチョウの食草であるセイタカスズムシソウが観察できる広場に車をとめる。広場の奥まで進むと、切り立った山肌の深い樹林部に房状の白い花をつけた大きな樹木があって、ツマムラサキマダラ、イシガケチョウ、ナミエシロチョウ、ときにはツマベニチョウが競うように求蜜活動をしており、大型のオオゴマダラも複数頭がふわふわと舞うように集っている。しばらくチョウ達のたのしげな宴の舞を遠めに楽しんで、ふと陽光がようやく届き始めた目の前の路面に目を移すと、いつのまに現れたのかコノハチョウが日向ぼっこを始めている。不覚にもビデオもデジカメも車に置いたままで、このせっかくの撮影チャンスを逃してしまう。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

沖縄八重岳（Apr. 25, 2017）: 2006 年以来の訪問で八重岳に向かう。道路沿いに咲く白花のアザミや、かわいいピンクの花、シロノセンダングサなどで吸蜜するのはシロビアゲハだけで、期待したアオスジアゲハの姿はなく、ときおりツマベニチョウが高い位置を横切って飛んでいく。もう少しチョウの種類が期待できそうな大宜味村押川地区へと移動することにしていったん道を間違えてしまうが、そこで思いもかけずコノハチョウが飛び出してくる。翅を傷めた個体など

複数のコノハチョウが飛び遊ぶ絶好の場所に偶然行き当ったようで、しばらくここで観察を続けてみると、路傍の草むらに新鮮なリュウキュウヒメジャノメも多い。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.